

第 3 期検証委員会における答申内容（案）

1 条例の運用状況について

(1) まちづくりへの参加の動機づけの強化について

分類	検証委員会としての意見
① 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りをはじめ地域の行事を行うことで、世代を超えた交流が期待できる。地域における取組の中で、地域の人々が交流出来るような取組の推進を図ることが大切である。 ・ 団体の強みを活かした協働による取組が推進されることで、団体同士が協働することによる相乗効果が期待できる。
② 防災・減災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における取組の中で平時から災害発生を想定した取組を進めることで、防災減災のまちづくりが推進されるのではないかと。 ・ 地域への愛着と防災意識につながるような取組の推進を図るためにも、地域の文化や歴史を知る取組を通じて、地域の文化や歴史について関心が高まることが望ましい。
③ 若い世代の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代が中心となって取り組まれている活動について、多くの人に知ってもらうように情報発信をすることが効果的である。
④ 事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者の地域活動に関する取組について、様々な機会を活用しながら紹介する等の取組を通じて、事業者のまちづくりへの参加の推進を図ることが効果的であると考えられる。

答申素案
<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりへの参加を促進するため、様々な媒体を活用した積極的な情報発信が行われているが、まちづくりの担い手として期待ができる中高生や大学生、若い世代、そして事業者への働きかけがこれから重要となってくる。また、防災や減災のまちづくりを推進するうえでも、地域における人々のつながりが大切である。 ・ そのため、若い世代や事業者がまちづくりに関する情報に触れられるような工夫や、地域で活動する団体等の存在が広く認識されるような取組を進める必要があるため、情報発信体制の充実も求められる。

(2) 条例の周知・普及について

分類	検証委員会としての意見
① 周知の仕方	<ul style="list-style-type: none">・様々な機会を活用しながら条例周知の場を設け、条例の趣旨を正しく伝えていくことが大切である。・合い言葉を含めて分かりやすい表現を取り入れることで、子どもから大人までが分かりやすい啓発パンフレットになるのではないか。
② 学生	<ul style="list-style-type: none">・様々な機会を通じて高校生や大学生に対して、まちづくりへの参加を促す取組の充実を図っていくことが効果的であると考えられる。
③ 一般	<ul style="list-style-type: none">・今後も様々な機会を活用しながら、市民や事業者の意識の醸成や、まちづくり活動への参加を促す取組を進めていくと良いのではないか。

答申素案
<ul style="list-style-type: none">・条例の周知を図るため、市民向け講座の実施や小中学校での漫画版パンフレットの配布等に取り組まれてきたが、条例の施行から10年が経過している中で条例の趣旨が広く市民等に浸透しているとはまだ言い切れない状況にある。・特に、子どもから大人までが条例の理念を正しく理解し、自らの生活や地域活動とつなげて考えられるような環境づくりが重要であり、日常の様々な場面において条例の考え方に触れる機会が創出されるよう、発信の方法や内容についても工夫が求められる。こうした取組を進めていくにあたっては、様々な機会を活用しながら、条例の周知の場を設けていくことも有効である。また、条例の理念が市民の身近な活動と緩やかにつながり、日々の実践に自然と反映されていくよう、理念に触れる機会や、それを支える環境づくりについても引き続き工夫を重ねていくことが望まれる。

2 条例の見直しについて

今期の検証委員会において審議を行った結果、改正すべき条文はないと判断した。